

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 6 月 14 日 (2007.6.14)

【公表番号】特表 2002-542319 (P2002-542319A)

【公表日】平成 14 年 12 月 10 日 (2002.12.10)

【出願番号】特願 2000-611585 (P2000-611585)

【国際特許分類】

C 0 8 F 2/18 (2006.01)

【F I】

C 0 8 F 2/18

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 4 月 9 日 (2007.4.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1 2】

前記禁止剤がヨウ化カリウムである請求項 1 1 に記載の方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1 3】

前記禁止剤を最初に、または重合の開始時および重合中に添加する請求項 1 1 または 1 2 に記載の方法。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

この態様から見ると、本発明は、懸濁（または分散）重合、好ましくは播種（seeded）懸濁（または分散）重合によるポリマー粒子の製造法において、水溶性の重合禁止剤、好ましくはヨウ化カリウムを水相中で使用することを特徴とする方法を提供する。これは、重合段階の始め（すなわち、モノマーを添加する時、またはモノマーのバルクを添加し始める時）に添加することができるが、しかし重合中に追加の禁止剤を添加することが好ましい。水溶性禁止剤は、例えば、1～50 重量 ppm、好ましくは 3～30 重量 ppm の濃度で添加することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

モノマーおよび禁止剤の添加は、長時間、例えば 1～15 時間、好ましくは 1～10 時間、より好ましくは 1～8 時間にわたって実施するのが好ましく、そしてモノマーの添加

速度は、その間一定であってもよいが、増加させることが好ましい。このような添加は、バッチ式であってもよいが、より好ましいのは連続式である。添加中は、重合混合物を攪拌することが好ましい。